

## 歴史地震の西暦表記について

茅野 一郎\*

日本で広く用いられている歴史地震の表には、必ずといってよいただろうが、西暦が併記してある。その西暦がほとんど皆グレゴリオ暦であることについて、グレゴリオ暦が使われるようになった 1582 年以前の西暦はユリウス暦で示すべきだという意見が出て(早川・小山, 1998 など)、賛成する人も少なくないようである(石橋, 1999 など)。「歴史地震」の投稿規定でもそう決まったようである。

小生もかつてはそう考えていたが、近頃はちょっと待ったという感じもして、いくつか考慮すべき問題があると思う。

ある地震、または、ある火山噴火を採り上げるとき、その時、そこで使われていた暦を使うべきだというのはもっともである。現地の同時代史料には勿論そう書いてあるはずである。1582 年以前にはグレゴリオ暦は世に存在しなかったのだから、グレゴリオ暦でなかったことは確かだが、それがユリウス暦であったかどうかは問題である。

日本から比較的近い外国として、東アジア諸国を考えると、インド・中国その他でユリウス暦が使われていたとはいえないのではなからうか。マルコ・ポーロが中国辺りへ来たのが 13 世紀終わりごろ、ポルトガル・スペインやオランダの植民地が出来てきたのは 16 世紀後半頃のようなのである。また、津波の場合、太平洋の向こう側の諸地方を考えると、ここでも、コロンブスのアメリカ発見が 15 世紀末だから、それ以前はインカやマヤの暦などが使われていたと思うので、ユリウス暦は使われていなかったのではないかと。ただ、当時の現地の文書史料はあまりないのかもしれないので、スペイン人やポルトガル人の史料を介して知ることが多いとすると、そこではユリウス暦かグレゴリオ暦が使われているのだろう。こういう場合、今日流布している史料集などに、もちろんその史料集の発行年代にもよることであろうが、1582 年以前の出来事については、ユリウス暦で書いてあるのか、グレゴリオ暦で書いてあるのか、どちらであろうか。

現在、グレゴリオ暦がほぼ世界共通の暦であることは確かであるが、ユリウス暦もそうだったのであろうか。筆者は歴史、特に世界史・西洋史にはほとんど無知なので、確かなことはいえないが、そうではなかったのではなからうか。一口にいってしまえば、紀元前 46 年にユリウス・カエサルによって制定されたユリウス暦は、ローマ帝国の暦だったといえるのではないだろうか。ローマ帝国の版図も時代によってずいぶん変わっているだろうし、西ヨーロッパと地中海周辺ととらえては少し狭すぎるのかもしれないが、世界共通の暦とはいえなかったのではないかと。アフリカ、アジア、アメリカ、太平洋諸地域等々ではユリウス暦は知られても、使われてもいなかったのではなからうか。

宇津先生は、アラビア暦(今でも使われているであろう)も参照しておいでになったと思う。

何かを媒介として表記するという場合に、その何か、1582 年以前はユリウス暦であるべしとは必ずしも言えないのではないかと。グレゴリオ暦を使うメリットは、それが太陽にリファーされているということで、年周変化を議論しようとか、海の潮位を計算しようとかという場合(この場合は太陽暦ではなく、太陰暦がいいのかもしれないが、今日、必ずしも便利だとは言えないと思う)には、グレゴリオ暦の方が便利なのではなからうか。

グレゴリオ暦か、ユリウス暦かを明示することは必要であろう。

西暦を表記する目的は何かというと、まず、その一つは、対応するイベントが外国でも知られているかどうかを知る手がかりになることが考えられる。しかし、地震計発明以前の地震で、近隣諸国以外で対応する現象があるか、たとえば日本の大地震を南北アメリカや、西欧で感じたという例があるだろうか。ごく少ない～ほとんどないのではないかと思う。1889 年の熊本地震を、ルポイル - パシュウィッツがポツダムの傾斜計か何かで記録したという話(なにが少しおかしな所があるようだが)より古いのが何かあるだろうか。

\* 〒221-0851 横浜市神奈川区三沢中町 7-15

ただし、火山・津波の場合は地震よりグローバルな現象だろう。

1582 年以前はユリウス暦でというのは、世界的傾向だともおっしゃるが、西欧中心主義にとらわれているように考えられる。

小生の無知を補うために、この文章を書く前に百科事典(万有百科大事典, 1975 小学館)を引いてみたら、意外なことも書いてあった。

「グレゴリオ暦の制定は宗教改革によって衰退したカトリック側の反動宗教改革の一環として行なわれたもので、そのためカトリック諸国がただちにこの暦を採用したのに対し、プロテスタント諸国は長い間これを拒否し、従来のユリウス暦を継続使用した。このため 18 世紀に至るまで、ヨーロッパ諸国及びその植民地において新旧二種の暦と暦日が用いられ、大きな混乱をひきおこした。しかし宗教上の紛争がおさまるとともに、プロテスタント諸国でも新暦を採用するようになり、ドイツでは 1700 年にプロテスタント諸国が新暦を採用し、イギリス及びアメリカなどその植民地は 1752 年に、最後にギリシア正教の諸国も第一次大戦の前後にグレゴリオ暦に改暦した。ヨーロッパ以外では、1873 年に日本が改暦したのをはじめ、ほぼ 20 世紀中ごろまでに世界の大半の国においてグレゴリオ暦が正式に採用された。(執筆者 岡田芳朗)」

これを見ると、グレゴリオ暦が現在のようにほぼ世界共通の暦になったのはずいぶん最近のことで、1582 年以降直ちに、世界中はおろか、ヨーロッパさえも一斉にグレゴリオ暦になったわけではないことが分かる。といて、何国で起こった地震だからユリウス暦、何地方で起こった噴火だからグレゴリオ暦というのではかえって紛らわしかろう。

ということも考えると、西暦を併記するというのも、何かを媒介として書いておくということ以上に出ないような気がし、それならグレゴリオ暦を使うのが便利ではないかというのが今のところ筆者の考えである。

筆者がふだん使っている歴史学研究会編「日本史年表」(岩波書店刊, 1972)は、グレゴリオ暦制定は、ローマ=カトリック教会の出来事として、(教)教皇の暦法改正(グレゴリオ暦)と書いてある。因みに 1582 年は、本能寺の変の年であることが分かる。

なお、直接グレゴリオ暦かユリウス暦かの問題には関係ないが、従来の被害地震の表などでは琉球の地震も日本の年号で書いてあるものが多かったが、筆者が分担した宇津徳治総編集「地震の事典」(初版 1987, 朝倉書店)では琉球の暦で尚王年(には漢字が、には数字が入る)という風に表記した。「球陽」等の史料には勿論そう書いてあるだろう。

区別し易いように和暦は漢数字で書くという提案は賛成である。

「…のではなかろうか」という言い方が多くて、お目障りだったかもしれないが、ご勘弁を願うしかない。識者のご教示を待つ次第である。

#### 参考文献

- 早川由紀夫・小山真人, 1997, 1582 年以前の火山噴火の日付をいかに記述するか - グレゴリオ暦かユリウス暦か?, 地学雑誌, 106, 102 - 104.  
石橋克彦, 1998, 実在しない天福元年二月五日(ユリウス暦 1233 年 3 月 17 日)の南海巨大地震, 地震 2, 51, 335 - 338.

1999.06.14.

2003.09.26. 補訂